

大浦総合研究所

大浦勇三 著

続 ビジネス梁塵秘抄（六）

学・献・遊

遊びは仕事、仕事は遊び
遊びは仕事、仕事は遊び
仕事は遊び、遊びは仕事
仕事は遊び、遊びは仕事
遊びは遊び、遊びは遊び
遊びは遊び、遊びは遊び

目次

はじめに

第一部

「遊」

遊びをせんとや生れけん

第二部

「献」

仕事をせんとや生れけん

第三部

「学」

学びをせんとや生れけん

はじめに

平安時代末期、「梁塵秘抄（りょうじんひしょう）」という歌謡集が編まりました。平安時代末期は、日本の歴史の中でも先が見えない激動の時代でした。編者は後白河法皇で一一八〇年前後のものといわれます。書名の「梁塵」は、その歌で梁（はり）の塵（ちり）も動いたという故事からとられました。多くの歌が七五調四句や八五調四句、さらには五七五七七の調子など、さまざまなバリエーションからなります。

通常、「梁塵秘抄」といえば、

**遊びをせんとや生れけむ、戯れせんとや生れけん、
遊ぶ子供の声きけば、我が身さへこそ動がるれ。**

（岩波文庫版）

が有名です。

二〇一二年から二〇一四年の三年間、「ビジネス梁塵秘抄（一）〜（十）」全二〇巻（九〇〇ページ・二七〇〇文）を刊行させていただきました。この三年間で日本はもとより、世界の景色は大きく変わりました。日米欧を中心に、それまで国や地域を支えていたさまざまなインフラ・制度の劣化が散見されるようになっていきます。財政の悪化をはじめとして、改革のためのルール・規制が複雑化し、身動きがとれなくなっていること、国民一人ひとりが能動的・自覚的に課題を解決して自律するという意識が衰退し、国や周囲への依存意識が強くなっていること、などが指摘されています。

日本人は三・一一で、あり得ないことも起こること・見たくないものは観えないこと・すべては変わることを経験しました。一方、世界では二〇四五年問題が浮上、一台一〇〇〇ドル程度のPCの情報処理能力が全人類の能力を超えるとの予測も台頭しています。人工知能が人間の意思を介さずに仕事をする時代の予感。人工知能を敵ではなくパートナーとして連携しながら、人間の思考力・発想力を強靱化すべきという課題。人工知能は舗装道路では強力でも、石ころだらけの砂利道では人智の出番も多いはず。世界が合理的・効率的な方向に動き、その大きな流れに太刀打ちできない以上、やりたいこと・やれること・やるべきことの重なる領域を徐々に広げながら前進するしかありません。ドラッカーだけでなく、ピカソからアインシュタインまでを内包するのが二一世紀の経営学。固有の文化・価値観を生かしたイノベーションには組織文化風土の深耕がものをいいそうです。

本書は、「ビジネス梁塵秘抄」に続き、「遊（遊び）」「献（仕事）」「学（学び）」に対する深い思いを無我夢中で纏めさせていただきました。重ねてご寛恕ください。

東京・神楽坂にて

大浦 勇三

遊

遊びをせんとや生れけん

*二〇ページ、六〇文より
一ページ、三文を抜粋

● 商人八訓は渡辺崋山の覚悟　まず朝は召使より早く起きよ
十両の客より百文の客を大切にせよ　開店の時を忘れるな
買手が気に入らず返しに来たら　売る時より丁寧なせよ
繁盛するに従って益々儉約せよ　武士・画家の崋山の戒め

● リーダーに求められる資質　知的な成長の複雑なプロセスを経なければ養えない
判断力　複雑なシステムから根本的な問題は何かを見抜く　答えは重要ではない
問題を正しく設定すること　問題に優先順位をつけ何が最も重要かを明確にする
落とし物にある本音　人生は一生オーディション、とコピーライター・糸井重里

● バリアを飛び越える　楽しい経験を創り出す　精神的自給自足
時速一〇〇キロのイノベーション　枠をはみ出しつつ色を塗る
完璧なスイングを修得　インタフェースを探して未来を生きる
専門的な何かにならず　ならず者の傑物になる、と赤瀬川原平

献

仕事をせんとや生れけん

*二〇ページ、六〇文より
一ページ、三文を抜粋

●日本の目指す方向 工業基地のグローバル展開 工業力とサービス力の結合
安定成長フェーズで獲得した社会・経済的技術 環境・都市経営などの更新
人口成熟化フェーズに固有の課題 健康・介護・生涯教育・科学技術・農業
重い扱いの曲だからといって硬くやったらあかん 面白うやれ、と茂山千作

●デザイン思考をイノベーションに生かす スタートから関わる
人間中心のアプローチを尊重する 行動・ニーズ・嗜好を重視
素早い試行錯誤を繰り返す ラピッド・プロトタイプング優先
外部支援OK 不道徳に馴れ抵抗力を身に纏え、と三島由紀夫

●意思疎通の能力 人の言うことをよく聞く・相手は同じ文化を持つ人とは限らない
異なる文化を持つ人の真意を掴む 個人・組織の価値観を長期的目標に置き換える
短期の目標に目を奪われないこと あいまいな状況の渦中で目標を見失わないこと
長期的な目標を見据える 歴史は繰り返さないが韻を踏む、とマーク・トウェイン



学びをせんとや生れけん

*二〇ページ、六〇文より
一ページ、三文を抜粋

● 大事なものは標準化 標準化というと すぐ効率化・コスト削減の側面から議論しかし標準化は イノベーションにも繋がる いろんな知恵を活用する仕組みその知恵の活用を一番見えやすくする方法が標準化 自己責任の回避はご法度人間は楽観的になろうという姿勢を多少は持たなくてはいけない、と村上春樹

● 継続は才能 糸川英夫さんは天才的なロケット科学者人間はゴールを目指して一歩一歩階段を昇るしかない昇っているのを隠して 見えないようにするのが天才見える形で昇っていくのが努力家 陰翳礼讃 明と暗

● リーダーの立場からメンバーに苦言を呈する 本人を責めるのではない仕事や行動を責める 独断は極力排除し説明に重心 推測では話さない具体的事実に基づいて話す 忠告するのでなく一緒に考えるなどの配慮危険（暗夜）と機会（一灯）は裏表 暗夜を憂うのではなく一灯を恃む

大浦勇三（おおうら ゆうぞう）

oura@office.email.ne.jp

大浦総合研究所 代表

<http://www.ne.jp/asahi/oura/oura-research-institute>

早稲田大学卒業、筑波大学大学院修了。

米国大手コンサルティング会社アーサー・D・リトル 主席コンサルタントを経て現職。主担当領域は、経営改革、経営戦略&情報通信技術（ICT）戦略策定、業務改革／組織改革、研究開発／商品開発マネジメント、ナレッジマネジメント&イノベーションマネジメント、人材マネジメント、コーチング&メンタリング、プロジェクト&プログラムマネジメント、ベンチャービジネス支援等のコンサルティング。

主な著書には、

- ・「ビジネス梁塵秘抄（一）～（十）…（全十巻）」（大浦総合研究所）
 - ・「イノベーション・ノート」（PHP研究所）
 - ・「IT技術者キャリアアップのためのメンタリング技法」（ソフトリサーチセンター）
 - ・「よいコンサルタントの見分け方、かかり方」（清話会）
 - ・「ナレッジマネジメントが見る見るわかる」（サンマーク出版）
 - ・「図解ナレッジ・カンパニー」（東洋経済新報社） ほか
- その他新聞、雑誌、ウェブサイトへの寄稿多数

続・ビジネス梁塵秘抄（六）「抜粋」 著者 大浦勇三

二〇一七年二月 初版 第一刷発行

大浦総合研究所

〒二七〇・〇〇三四 松戸市新松戸七・五四三

○大浦総合研究所

大浦総合研究所の許可なく複製・改変などを行うことはできません。